

WASEDA MECHANICAL ENGINEERING

第53号

APR. 2022

Newsletter

発行元 早稲田機友会編集委員会
2022年(令和4年)4月1日発行

『つながりたいと思える機友会組織の実現にぜひご協力ください』

理工学部が明治通り沿いに移転してから50年以上がたちました。グラウンドやテニスコートは研究棟となり、喜久井町理工研、早実跡地、女子医大隣接地等にも研究施設が次々建ちました。理工キャンパスの下に地下鉄副都心線の西早稲田駅ができ、日本一便利なキャンパスとなりました。2031年までに教室棟を中心に全面改築が行われます。毎年5月の週末に機友会総会(本年は5月28日(土)13:00開始)を開催するので、その機会に変わりゆく早稲田大学をご覧ください。現在、情報発信の強化とネットワーク拡充、財務体質の改善を目的に、広報活動の見直しを行っており、メールアドレス登録や会費納入にご協力いただければ幸いです。(機友会役員一同)

会長就任のご挨拶

早稲田大学名誉教授 大聖 泰弘
(1970年卒 齊藤(孟)研)



この度、機友会の会長を拝命しました大聖 泰弘(1970年機械工学科卒、本学名誉教授)です。会長を務めておられた3年後輩の勝田正文名誉教授が病に臥され、惜しくも昨年9月1日に逝去された後を受けて、この任をお引き受けすることになりました。ここに、皆様と共に勝田先生のご冥福をお祈り致したく存じます。

まず、自己紹介しますと、私は故齋藤 孟先生の研究室で学び、機械工学科の教員として研究教育に携わって参りました。授業では、工業熱力学や機械工学実験、熱エネルギー変換工学等を担当してきましたので、40年近くにわたって卒業生の方々と接点があったこととなります。

研究面では、自動車用エンジンの排気浄化や高効率化をはじめ、各種電動車の試作や性能評価にも取り組む一方、国の自動車の排出ガス規制や燃費基準の策定にも長年関わってきました。5年前に70歳の定年を迎えましたが、今でも学会や国の委員会に参加しております。

因みに、機友会主催の教員と学生による豊島園での運動会や57号館大教室での「ふいご祭り」等の年中行事が懐かしく思い出されます。また、自ら「鳴らそう会」を組織し、57号館大教室でクラシックレコードの演奏を大音

響で楽しむ機友会サークルを主催していたものでした。

さて、現在新型コロナウイルス禍が長引き、機友会は半ば休眠状態を余儀なくされています。そのような状況にあって、昨年12月に各界で活躍されている卒業生諸氏を招いて行われた機友会主催のオンラインによる「就職進路パネルディスカッション」は、多く学生諸君の参加を得て盛会とすることができました。この成功を通じて、機友会の活動復活を推進すべき意義を再認識した次第です。

これからは、この度の災いの終息を見越して、2022年度を機友会再生の年度と位置付け、財政の立て直しのため会員の方々からの会費納入を促進しなければなりません。また、ニュースレターの発刊の電子化やメールマガジンの創刊等によって会員間の交流や情報交換の活性化を図りたい考えです。さらに、サークル活動の支援、卒業生向けのリカレントセミナーの開催、さらには機械工学分野における今後の発展に関わる提案にも取り組みたいと存じます。

つきましては、機友会への恩返しのため、つもりで微力を尽くして参りたいと存じますので、皆様には、本会の活動への積極的なご参加とご支援はもとより、本会の将来の発展に繋がる前向きなご提案を頂ければ幸いです。

CONTENTS

機友会会長就任のご挨拶	1
機友会新体制 機友会副会長からのメッセージ	2
機友会理事と相談役からのメッセージ	3
機友会の組織強化に向けて	4
新生機友会の運営方針・考え方	5
新任教員からのメッセージ	6
梅津光生名誉教授最終講義を拝聴して オリブ奨学金「維持員」名称の贈呈報告	7
第41回モビリティシンポジウムのご報告 早稲田大学第7回航空宇宙シンポジウム報告	8
学会等における受賞 文部科学大臣表彰受賞して	9
機友会アーカイブ創設に関するご提案 会員ベンチャー支援の新提案	10
就職担当職員より 就活未経験者が就職担当を経験して	11
山根雅己先生を偲んで 我らが勝田正文先生を偲ぶ	12
事務局からのお知らせ 会員計報 編集後記	13
公認サークル合同新歓 OG座談会	14
メカ女会	15
学生部会のこれまでと今	16

機友会新体制の メンバー一覧

会長	卒年	研究室
大聖 泰弘	1970	齊藤 (孟)
副会長		
谷山 雅俊	1975	永田
宮川 和芳	1983	加藤
西 圭一郎	1990	河合
宮下 朋之	1990	山川
理事		
一丸 清貴	1975	加藤
朝倉 啓	1978	齊藤 (孟)
濱島 幸生	1987	井口
三須 弥生	1994	大田
錦古里洋介	1996	林 (郁)
桑山 勲	1997	林 (郁)
大野 慶祐	2008	齊藤 (潔)
金井 太郎	2014	滝沢
藤井 祥万	2015	中垣
教職員理事		
高木 祐治	1983	田島
佐藤 哲也	1987	東京大学
松本 裕幸	1989	本村
草鹿 仁	1991	齊藤 (孟)
天野 嘉春	1991	橋詰
岩崎 清隆	1997	梅津 (光)
岩瀬 英治	2000	東京大学
小野田弘士	2001	永田
細井 厚志	2003	川田
学生理事		
折笠 勇	2019	鈴木
中村浩太郎	2017	中垣
監事		
松島 義幸	1970	河合
相談役		
真下 進	1965	松浦
浅川 基男	1966	林 (郁)
太田 邦博	1970	川瀬
梅津 光生	1974	土屋
大貫 正雄	1976	教育学部
事務局		
井古田忠雄	1975	山根
神原 隆之	1975	山根
松島 好則	1975	山根
下坂 淳子	1976	文学部
豊田 康子	1979	文学部

副会長からのメッセージ(順不同)

谷山雅俊 (1975 卒、永田研)

卒業後、東芝で蒸気タービンの設計から始まり、火力発電プラント事業に携ってきました。

機友会では、2015年から関わり、ゴルフ委員会も担当しています。

近年、機友会の組織を改革し、活動全体を見直すべく、検討してきました。昨今のコロナ禍で中断時期もありましたが、2022年度から、学生・教員・OBの三位一体活動を開始します。

私は総務関係を担当し、各種企画・イベント・広報活動を縁の下で支援します。会員の皆様もご協力をお願い致します。



西圭一郎 (1990 年卒、河合研)

大学を出てもう30年になります。

修士課程の後に鉄鋼会社に入り、ずっと製造の現場で働

てきました。社会に出て多くの仕事や人に出会い、成果もあれば挫折もありました。今日もです。

スーツの機会が多くなりましたが、今もまだ現役で戦っています。現役で働いている卒業生はとっても忙しいです。忙しいからこそ得られる vivid な経験や知識、感性を学生や先生方と共有し共感をしたい。またワセダの新しい視線を卒業生は感じて活力にしていきたい。

「母校支援の新しいかたち」として、私たち普通の企業人も参加し、貢献することができます。

この機友会を、第一に学生諸君、そして教職員の皆さん、卒業生にとって有意義な、集まり参じることができると場に発展させていくことを目標とした。

しかし「王道がある訳ではなく、地道な粘り強い取り組みが必要。」と、先輩理事からの金言を記しておきます。



宮川和芳 (1983 年卒、加藤研)

機械科学・航空宇宙学科の宮川です。

1983年に加藤一郎研究室を卒業、1985年に橋詰研究室を修了し重工業メーカーに就職、その後、2011年に機械科学・航空学科に着任いたしました。

専門は、流体機械で水車、ポンプ、過給機などの要素技術研究と開発を実施しています。

最近、情報系の人気が上がっていて、相対的に機械系の人気下がっています。優秀な学生を育て、日本の機械系製造業に送り込むミッションに大きな陰りが生じています。最近の再生可能エネルギーの導入や自然災害への対応には先端の機械技術を駆使する必要があります。人材育成は急務です。機友会の皆様にはさらにご活躍いただき、若者が機械技術に興味を持つようなトピックスを世の中に発信してください。

機友会でお会いできることを楽しみにしております。



宮下朋之 (1990 年卒、山川研)

故・勝田名誉教授・機友会会長の就任に伴い、コロナ禍のため活動を見送っていた各種の活動を再開

するべく、補佐のご用命を受け、機友会の活動を支援するために就任いたしました。機械の動的特性を考慮した設計最適化を専門としております。人材育成は極めて大切な課題で、機友会における活動も重要と思います。以前に理事職を終了してから7年程度経過しておりますが、どうぞよろしく願いいたします。



早稲田機友会理事と相談役からのメッセージ

理事 20 名・相談役 5 名から 9 人を任意に選んで書いていただきました

藤井祥万 (2015 卒
中垣研 理事)



2020年3月に総合機械工学専攻で博士学位を取得し、現在は東京大学未来ビジョン研究センター・特任助教として、持続可能な社会の創造・実現に向けた研究・教育活動を実施しています。学際的な活動が重要視される中、多様な早稲田・機械の学生、同窓生のネットワークの重要性が増してくると考えており、理事として微力ながらその基盤である機友会の発展に尽力させていただき所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

金井 太郎 (2014
卒 滝沢研 理事)



2019年3月に総合機械工学専攻、滝沢先生の下で博士(工学)の学位を取得し、株式会社三井造船昭島研究所を経て、現在は日本郵船株式会社に勤務しております。

2015年の研究室対抗野球大会や2017年の学生部会発足の時からのご縁で機友会活動に関わらせていただいております。この数年で機友会活動に参加される年代の幅が広がりました。若手理事として、我々若手の意見や要望を拾い集め、多くの学生・卒業生にとって充実した機友会となるよう努めてまいります。

高木祐治 (1987 卒
広瀬研 理事)



1987年に機械工学科を卒業し、技術職員として早稲田大学に就職しました。

現在、理工学術院統合事務・技術センターの技術部長を務めています。

技術職員は、教育研究現場での高度かつ緻密な技術教育や技術支援を通じて、国内外で大きな夢を持って活躍できる学生の育成に日々励んでいます。在学生、卒業生、教職員が一丸となって、伝統ある早稲田機械を盛り上げ、さらなるプレゼンス向上を図っていきたいと思っていますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

天野嘉春 (1991 卒
橋詰研 理事)



2000年4月に理工研(当時)の教員として赴任しました。現在は機械科学・航空宇宙学科に所属しています。2018年~2020年まで学科主任の立場から、本理事に就任いたしました。航空宇宙シンポジウムの企画、運営に係わり、理事の丸様、相談役の眞下様のお手伝いをさせて頂いております。航空・宇宙業界でご活躍の機械系OB・OGを中心に学生に向けた講演をお願いしています。OB・OGの皆さんの声を現役学生へ届けられれば幸いです。

草鹿 仁 (1991 卒
齊藤(孟)研 理事)



1999年から専任教員として今日に至るまで本学一筋で過ごしてきた、NBAで言うフランチャイズプレイヤーです。2020年9月より学科、専攻、さらにはMajor in Mechanical Engineeringの主任を仰せつかっており、これに伴い今年度から理事を拝命しました。

機友会の活動をOBにとって実りあるものにするとともに、現役の学生にとっても、例えば就職活動あるいはキャリアアップの一助となる、といったwin-winの関係を築ければと期待しています。

法人化も視野に入れながら検討していければと考えています。

濱島幸生 (1987 卒
井口研 理事)



モノづくりの会社勤務ではなく、もう現役バリバリでもない年代の理事です。

井口研にて形状記憶合金アクチュエータのロボットを企画開発し1989年に修了、野村総合研究所では国土・地域政策の立案支援や新規事業/業務改革コンサルに従事。機友会では2016年頃からの改革活動に関り、新たなビジョン検討や学生部会の立ち上げ・運営等をサポートしましたが、今改めて社会要請に応える機友会を実践したいと思っています。ぜひ一緒に考えアクションを起こしましょう。

朝倉 啓 (1978 卒
齊藤(孟)研 理事)



2018年度から理事を務めております。1980年に齊藤孟先生の研究室を修士で卒業し、株式会社IHIに入社しました。以来、回転機械の設計・開発に従事した後、取締役・執行役員として技術全般や経営企画に携わり、2020年に退任しました。理事としての抱負は、何としても会費納入率の向上を図ることです。2.5万人もの会員がいて、僅か2%の納入率というのは天下の早稲田として嘆かわしいことです。OB・OGの皆さんのご協力をお願いいたします。

小野田弘士 (2000
卒 永田研 理事)



2006年3月に機械工学専攻で博士の学位、現在は、本学環境・エネルギー研究科の教務主任を務めています。自立・分散型エネルギーシステム、資源循環・廃棄物処理システム、次世代モビリティ等の社会実装に向けた研究・プロジェクトに従事しています。環境・エネルギー分野はもちろんのこと、自身の起業経験も生かして少しでも貢献できればと思っています。

眞下 進 (1965 卒
松浦研 相談役)



卒業と同時に東京ガスに入社し、耐熱鋼熱疲労破壊などの技術的体験をすると同時に鉄道模型製作を趣味としてやってきました。この10年間 機友会理事として、機友会創立100周年記念事業、学生部会創設、名簿改定等の活動があり、さらに機友会のイノベーションを目指してスタートを切る仕事を推進してきました。

機友会の使命は、学生・卒業生・そして教員から多くの支持を頂くことです。学生には機友会活動で支援し、新分野へ挑戦すべきベンチャービジネス分野への取り組み等、進取の精神を大いに発揮されることを期待し、卒業生には早稲田大学への思い(集まり散じて人は変われど、仰は同じ理想の光)です。教員からは機友会への忌憚のない意見や提言を存分に頂く。その継続が機友会の発展に繋がると強く信じ相談役一同、協力して支援して行きます。

「機友会の組織強化」～マトリックス体制の構築と運営のスマート化～

組織強化 Gr 西圭一郎（1990年卒、河合研）、宮下 朋之（1990年卒、山川研）、
Gr リーダー 宮川和芳（1983年卒、加藤研）

機友会は100周年を過ぎる中で、社会の大きな変化と、著しい技術の進歩に対応してきました。早稲田大学理工系の組織も2007年に一新、機械系は2つの学科となり各々の特色を生かした教育、研究を実施しております。

このような環境変化の中で、2019年度に機友会の基盤構築と安定運営を目指すこと、組織の若返りを図ることなどを目標により組織強化の検討を開始いたしました。特に、

- ・機友会運営を強化する方策の検討
- ・会費の増収を実現するための強化策の検討
- ・会員の積極的参加策の検討

について具体的な打ち手の準備にかかりました。その目玉は、「母校支援の新しいかたち」というコンセプトのもと、機友会と企業のネットワークを構築するもので、「企業別機友会」設定の発想、企画を進めました。

しかしながら、コロナ禍によりほぼ2年間活動の休止を余儀なくされ、さらに在宅ワークの拡大により企業の中での働き方、社員同士の関わり方が大きく変化し、もはや前述の企業の中での機友会会員の結束を期待することが難しくなりました。

上記経緯により、2021年8月から2022年度の機友会活動の再開を目指して新たな組織強化の検討を開始しております。検討の内容は、前述の3項目を踏襲したのですが、社会情勢を鑑み、OBOG、学生への支援を第一に具体化を進めております。本稿では、組織強化を進めている内容について記します。

【方針の再設定】 組織強化のベースとなる方針を以下に記します。

1) 機友会の方針設定：ミッション、

ビジョン、ストラテジー（MVS）の設定により活動方針を明確化する。

2) 運営の機能分担と責任強化：運営を総務、広報、企画と機能ごとに分担し、それぞれの役割の明確化と管理の強化を実施する。

3) 幅広い年代の意見反映と支援強化：OBOG、学生、教員の意見、活動内容を運営に反映し、幅広い年代をカバーする運営が可能なように運営体制を各階層（企業のOBOG、中堅層、若年層、学生、教員）により構成する。

4) 堅調な運営：会員への支援強化とメリットの明確化による会費納入者の増加を図る。

5) 情報発信体制の構築：ニュースレターの内容見直し、メール、SNSの活用による効果的な機友会情報の発信を行う。

6) イベント力の強化：魅力あるイベントを計画的に実施し、会員への支援を充実させる。

【運営組織の構成】 体制を機能と階層のマトリックス構成といたします。下図に構成案を示しますが、会長の下、機能別グループと、年代を細分化した階層により機能強化を図ります。

また、各組織の横通しを、相談役を交えて定期的を実施し、シナジー効果の導出と各組織の蝸壺化を防止いたします。特に会員へのサービス向上の核となる企画は、内容に応じて細分化し、さらに学生の自主的な計画、活動が可能な組織を設けます。

以下に各機能別グループの担当内容を紹介いたします。

・総務：総会関連、理事会運営、幹事

会、資産管理、会員管理、会計業務など

・広報：ニュースレター発行（編集委員会）、ホームページ運営、メールマガジン、SNS運営など

・企画：ガイダンス、パネルディスカッション、ホームカミングディ、各種シンポジウム、交流会、見学会、講習会、研究室紹介、サークル、野球大会、メカ女など

【機友会フォーラム（仮称）の設置】

機友会はこれまで、卒業生間での定期的な懇親や、学生の諸活動支援などを中心に行ってまいりましたが、ここ数年、機友会の活動の更なる活発化を検討していく中で、機友会組織を「卒業生が大学に立ち帰り、現役学生・教員と交流し、相互に啓蒙していく機能」として活用していきたいとの声を多く受けております。2022年度より“機友会フォーラム”という枠組みで、現役学生たちが卒業生の活躍にダイレクトに接することのできる機会を設けることを目的に、年間を通じた各種行事を計画しております。数多くの卒業生が活躍されている企業には、この“機友会フォーラム”に参加していただき、活動を共に行っていくことをご検討いただきたいと考えております。

早稲田機友会フォーラムでは、ご参加いただける企業の皆さまと共に、以下のようなイベント、行事をリアル/リモート場で計画しております。企業、卒業生、学生、教員の皆さまのニーズを取り上げて、さらに拡充を図ってまいります。

機友会フォーラム講演会、技術交流会、ニュースレター、メールマガジン、バナー広告、工場・事業所見学会、就職パネルディスカッション、機友会フォーラム交流会、機友会会員サロンその他、機友会の行事、機友会が参加する行事に、様々な形で参加いただける機会を検討しております。

以上、機友会の組織を2022年度から強化すべく度重なる打ち合わせと準備を鋭意進めております。会員の皆様からのご意見、ご支援をぜひいただきたくお願いいたします。

	総務	広報	企画1	企画2	企画3	学生企画
会長						
Gr 取り纏め						
幹事（事務局）						
理事（会社OB）						
理事（会社中堅）						
理事（入社数年）						
大学院生						
学部生						
教職員						

運営組織の構成案

「新生機友会の運営方針・考え方」～機友会活性化に向けた取り組み～

活性化検討Gr: 太田邦博(1970年卒、川瀬研)、金井太郎(2014年卒、滝沢研)、
桑山勲(1997年卒、林(郁)研)、濱島幸生(1987年卒、井口研)、藤井祥万(2015年卒、中垣研)、
Grリーダー 三須弥生(1994年卒、大田研) アドバイザー 宮川和芳教授(1983年卒、加藤研)

2019年から、この先10年の基盤構築と安定運営を目指し、梅津前会長の「イノベーション2020」の下、活性化に向けた具体策を6名の理事で検討してきました。

まず、活動について、提供者、対象者にに基づきマッピングを実施した結果、「学生支援活動は多いのに、実感が無い」「学生会員以外には、どういう場の提供が必要か不明」という実態が見えてきました。そこで、活性化とそのためニーズ把握にむけた機友会会員のネットワーク拡充を喫緊の課題とし、具体的なアクションの提案を行いました。

しかし、その後コロナ禍により休止状態、2021年8月、活動再開しましたが、社会環境や行動様式が一変し、機友会の在り方も新たな視点で再度検討の必要ありという結論に至りました。まず現状認識を整理し、行動様式の変革を好機とし、機友会員の同窓組織への新たなニーズに応えるべく活動内容を検討しました。

【現状認識】 まず、現状の認識についての意見を紹介します。

- 1) コロナ前と同じことを目指すのは難しいが、何か動き出したい。
- 2) 機械系学科への人気は下降気味。
- 3) 情報系の人気は、機械の良さを改めて見つめ直し、伝えていく機会。
- 4) カーボンニュートラルや自然災害への対応等の喫緊の課題の中で基盤となるのが機械工学。
- 5) 機友会実施の成功事例(シンポジウム等)が活かしきれていない。

【活動内容】 次に、前述の現状認識に関する議論を踏まえ、活動内容に

ついて検討しました。

1) 機友会がイニシアチブをとるべき活動や支援する活動を整理・検討：

コロナ禍でも継続できた活動や実績のある活動の多くは教職員が中心。機友会の存在意義を考え卒業生による参画機会を増やす。

2) 会社/工場見学会：

機友会がぜひイニシアチブをとるべき活動。学科や研究室にとらわれない、機友会からの働きかけは可能。ただし、企業へのアプローチは教職員の協力を得る実施体制が必要となる。

3) アクティブに何かを生み出せる活動の必要性：

技術的な課題に対する企画として「共創プログラム」(仮称)のアイデアを募り、その予算やフィールドを提供。参加者が知見や新しい考え方を得られる機会やネットワークが構築でき、実利があれば、参加者はアクティブに変わる。まずは、少人数で双方向の交流の場を作るところから始めたい。

4) 学生の機械工学への魅力発掘環境の提供：

学生の人気低下を意識して企画。活動の過程でバリバリOB/OGを巻き込み、会費納入率向上などの良い循環に繋げてゆく。

5) 機械工学の魅力の中高生に伝えるアプローチも検討：

早稲田・機械系への入学希望に確実に影響すると考えられる。

6) ニーズ把握のためのネットワーク拡充と情報発信の強化も含めた広報活動の充実：

2019年当時の分析結果は今も有効でニーズとの乖離やニーズの未把握が

課題であり、ニーズ把握のためネットワーク拡充を図る。

また、過去に実施した有益な活動が、情報発信の脆弱性から活かしきれなかったと考えられ、情報発信の強化も含めた広報活動に力を入れるべきで、組織強化Grと連携して、新企画の検討と今までに実施した企画の精査を実施します。また、運営に参画するメンバーは、広く、随時、募集しています。多様な分野で活躍するOB/OG皆様の知恵や知識を融合することで、コロナ禍の苦境を克服し、次世代につながる価値創造ができると信じています。今後実施されるイベントへぜひ参加していただくと共に、アイデアのある方、活動に意欲や興味がある方は、ぜひご連絡下さい。

イベント案の一つとして、2022年夏ごろに、本年3月の卒業生を含むOB/OGが集まれる機会(「新・ホームカミングデー」(仮称))を作る予定です。卒業して間もない皆さんが悩みを共有し、新たな視点で活力を得られるような、そんな機会を作り出したいと考えています。「新・ホームカミングデー」については、登録いただいているメールアドレスにお知らせすると共に、機友会ウェブサイトなどに掲載いたします。ぜひご参加ください。

また、上記イベントなどの情報発信の強化として、ニュースレターやホームページの見直し、メールマガジンの発行、それらの広告収入の検討なども計画中です。そのためのメールアドレスや連絡先の登録のお願いなどもさせていただきますので、ぜひよろしく願いたします。

これまでの活動内容

- ①オリエンテーション
- ②就職パネルディスカッション
- ③会社見学会
- ④工場見学会
- ⑤送別会
- ⑥ゴルフコンペ
- ⑦単位取り直し講座
- ⑧基調講演(総会時)
- ⑨モビリティシンポジウム
- ⑩航空宇宙シンポジウム
- ⑪ホームカミングデー
- ⑫ベアレングデー
- ⑬イベントサロン
- ⑭女子会
- ⑮スポーツ大会
- ⑯学生会会支援
- ⑰会報発行(⇒全体が対象)

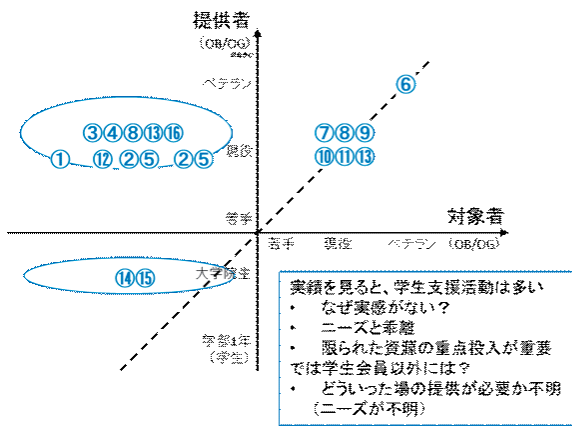


図 これまでの活動内容の提供者と対象者に対するマッピング



活性化検討 Gr の Web 会議の様子
左列上から、三須、桑山、藤井、
右列上から、金井、濱島、太田

新任教員からのメッセージ（順不同）

『新しい旗を掲げる』

荒尾与史彦（2004年卒 川田研）

【機械科学・航空宇宙学科】

2020年度より機械科学・航空宇宙学科の専任教員に着任しました荒尾与史彦と申します。私は2000年に早稲田大学理工学部機械工学科に入学し、2006年に修士課程を修了し、川田宏之先生のご指導のもと2010年に博士号を取得することができました。

学生時代を振り返ってみると、本当にいい加減な学生だった私が素晴らしい先生方、友人と出会えたおかげで大きく成長できたと実感しております。20年近く経った今でも当時学んだことは忘れておりません。その記憶を挙げればきりがありませんが、2つほど挙げさせていただきますと、1つは浅川基男先生が授業中に口を酸っぱくして言っておられた「授業は1コマ7000円」です。当時学生だった私は、「とんでもないお金を払っているな、これは集中して授業を受けるといかん」、と時々居眠りをしながらも気を引き締めて授業を受けておりました。今教員の立場になってみると、それだけの価値があるものを学生に提供できているか？と常々自問しながら授業の準備をしております。もう一つは、「早稲田大学のミッションは新しい旗を掲げることである」という言葉です。私学のトップとして、また早稲田の在野の精神をもって、人まねの研究ではなく新しい分野を開拓していきたいと思っております。未熟な私でございますが、目標は大きく掲げて、早稲田の先生方、学生と共に新しい旗を掲げられるように頑張っていきたいと思っております。



『熱中できることを探そう』

竹澤晃弘（2003年卒京都大学 吉村研）

【機械科学・航空宇宙学科】

2020年度より機械科学・航空宇宙学科の専任教員に着任しました竹澤晃弘と申します。

学生時代の私は成績が中の下程度、研究室を選んだ理由は余り人気じゃない研究室だけど、先生が優しくそうだったからという、お世辞にも出来の良い学生とは言えませんでした。

もし当時の私に、将来は大学で教鞭をとっていると言っても信じなかったと思います。

それが変わったきっかけは、卒業研究で取り組んだシミュレーションソフトの開発でした。

プログラミングを心底楽しいと思い熱中した私は、それをきっかけとして今まで知らなかった、自分で何かを作り出す喜び、また、良い成果を先生から褒めてもらえる喜びを知りました。

そしてその次のステップである関連研究の調査、論文執筆とどんどん研究の世界にのめり込んで行きました。このように人生何がきっかけで変わるかわかりません。

学生の皆さんにも私のように何かしら夢中になれることを見つけて欲しいですし、教員の役目はそのきっかけを提供することだと考えております。

アンテナを張って良い出会いを逃さないようにしましょう。



『色とりどりの花が開くように』

上道 茜（2009年卒筑波大学 笠原研）

【総合機械工学科】

2013年、筑波大学で学位取得後、東京大学工学系研究科機械工学専攻助教、東京農工大学工学府特任助教を経て、2020年4月、本学に着任いたしました。

大学院時代は、西岡牧人教授の指導下で超薄燃焼の基礎研究に取り組み、その後、東大でガスタービン燃焼器において発生する燃焼振動（流体関連振動）や災害時にも医療を継続するためのエネルギーシステムに関する研究に展開し、今も続けています。

研究指導名は「エネルギーシステムメカニクス」としました。エネルギー機械システム技術の高（多）機能化・高信頼性化に向けて数理モデルベースの機械設計や現象理解は欠かせません。実社会の複雑な問題を解決することを目指して、日々、研究室の学生さんと悩みながら・楽しみながら、研究に取り組んでいます。

私は、早稲田大学で出会う学生のみなさんが、輝く未来を瞳に写したように生き生きとした表情をしていることに心惹かれています（自由な校風のおかげでしょうか？）。彼らの心にある才能の芽が育ち、やがて色とりどりに花開くよう、最大限のサポートを精一杯やっています。ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願います。



『早稲田の伝統とともに』

藤澤 信道（2013年卒 太田研）

【機械科学・航空宇宙学科】

私は2009年4月基幹理工学部に入學し、学部2年から機械科学・航空宇宙学科に配属されました。その後、学部3年時から2018年3月に同大学院基幹理工学研究科機械科学専攻博士後期課程：博士（工学）を修了するまで太田有先生のもと指導を受けました。

博士後期課程1年目の2016年4月より本学科助手、学位取得後の2018年4月より同助教、2019年4月より同講師（任期付）を経て、本年4月より同専任講師に着任いたしました。学部入学時から数えると早稲田15年目になります。

専門は流体力学や流体機械で、特に航空エンジンや発電機などに用いられるターボ機械の内部流れ場の構造解明を目的に研究を行っています。脱炭素化の国際的な流れの中で、インフラや輸送機器などを支える根幹であるターボ機械の高度化はますます重要になっております。ターボ機械内部の複雑流動を解明することで、ターボ機械の更なる高性能化および脱炭素化のための技術発展の一助を担えたらと考えております。まだまだ若輩者ではありますが、早稲田の自由な校風の中で学生と切磋琢磨しながら研究を推進していきます。



梅津光生名誉教授最終講義を拝聴して

早稲田大学生命理工学専攻 坂口勝久 (2002年卒 梅津光生研)



2021年10月2日、恩師である梅津光生教授の最終講義が執り行われた。その日は、緊急事態宣言が明けた翌日、そして台風一過の雲ひとつない晴天で、教授のお人柄を反映させたよう日和であった。会場となった大隈講堂は、1000人近く収容できるものの新型コロナ対策の人数制限のため200人収容となり、午前・午後と2部構成となっていた。当然のことながら会場は午前も午後も満員予約になり、国外にいる卒業生の要望もあったことから、Zoomとのハイブリット形式で執り行われた。最終的には1000人以上が参加していたと聞いている。「最終講義が2部構成」、梅津先生は人と人の繋がりを大切にされるだけではなく、「前例のないことを行う先生だ」ということ改めて感じた。

最終講義を拝聴して、“とらわれない発想を生むには”を主軸に講義されていたと感じている。“前例のないことをする”に繋がる話である。私が梅津先生の業績に触れるのは恐縮だが、生体

と流体の融合、医工連携、2大学連携施設（ツインズ）の建立、2大学共同大学院の設立という、「前例のない人と人との繋がり」を作られている。私の研究テーマは再生医療や培養肉の研究になるが、この研究テーマも梅津先生が作られた“人と人の繋がり”から生まれている。この研究領域は、1990年代に、機械工学と細胞生物学との融合研究として開始され、当時としてはあまり前例がなく、とらわれない発想である。

ご縁を大事にすることは古来仏教から智慧のひとつである。皆、この智慧が大事であることは知ってはいても、な

かなか実践することは難しいものである。梅津先生の最終講義を聞いて、このご縁を大事にすることの大切さをより実感した次第である。再確認できたことに感謝しかありません。ちなみに私は出家しており、真言宗の僧侶（阿闍梨）である。僧侶よりも実践されている梅津先生の智慧を退職された後も仏教工学として布教していただきたいと切に願っております。

最後になりましたがこの寄稿の場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。 合掌



梅津光生名誉教授



梅津ご夫妻と卒業生

オリーブ奨学金「維持員」名称の贈呈報告

早稲田大学機友会会長 大聖 泰弘 (1970年卒 齊藤(孟)研)



2019年8月23日、惜しまれて不帰の客となられた佐々木洋子さんは、生前より多額の奨学金を寄付され、2015年度よりそれを原資として、総合機械工学科と機械科学・航空学科の学生各1名に毎年奨学金が授与されています。受賞者は本会のニュースレターで紹介され、これに賛同された卒業生の方々からもこの奨学制度に寄付が行われています。この度、故人のご遺志でさらに多額の遺産が寄付されたことから、ご命日付けで鎌田総長より寄付貢献の最高位である「維持員」の称号が授与されました。新型コロナ禍で遅れましたが、昨年12月8日に行われた贈呈式に私が代理として出席させて頂きました。

佐々木さんは1962年から本学職員として務められ、機械工学科連絡事務室に在籍された14年間、学科の予算管理や会計処理、年中行事等の手配を一手に引き受けていただきました。

明るく人懐っこい性格、手際のよい仕事振りで、教員と学生諸君からは、

大いに好感を持たれ、頼られる存在でもありました。そのような性格と細身のスタイルから、いつの頃からか、親しみを込めて、当時のディズニーの人気アニメ「ポパイ」の相手役である「オリーブ」の愛称で広く呼ばれるようになりました。奨学金の呼称もこれに由来しています。他の部署に異動されてからも、何かに付けて本学科のことを気に掛けられ、ご定年後は本会のニュースレターの編集等にも協力して頂きました。

この奨学金制度は、故人が本学科の

学生諸君に対していかに愛情を持って接して来られたかを示すかけがえのない証左でもあります。そのご遺志を末永く伝え、将来ある学生諸君の学業支援に役立させて頂きたく、教員、卒業生、現役生を代表し、今は亡き佐々木さんに対して改めて深甚なる感謝の意を表します。



第41回モビリティシンポジウムのご報告

久保悠之介 (草鹿研究室 修士1年)



本シンポジウムは、自動車技術やモビリティに関わる諸問題を対象に、早稲田機友会・内燃機関研究会の活動の一環として1981年に開始されました。その後、1993年より早稲田大学理工学研究所内に設置されたプロジェクト研究(早大モビリティ研究会 代表草鹿仁教授)として「自動車技術と持続可能なモビリティに関する研究(第10次早大モビリティ研究会)」(2020~2022年度の3年間のプロジェクト研究)の活動の一環として運営・開催しています。

これまで、世界でもトップレベルの燃費規制、排出ガス規制さらには燃料の品質管理を通して環境・エネルギー問題に関する社会的要請に確実に応えてきた自動車業界では、今後はカーボ

ンニュートラルに向かって、さらなるパラダイムシフトが求められています。

また、300兆円を占める日本の製造品出荷額の約20%を占める日本の自動車産業の国際競争力の維持といった戦略的な視点とSDGsや温暖化問題に代表される地球全人類の共通課題を同時に解決していくことが求められると言えます。

第41回となった本シンポジウムは昨年度に引き続き、オンライン開催となりましたが275名の方が参加し、活発な討論が交わされました。このように長い間充実した内容の講演会として続けて来られましたのも、講演者の方々をはじめ、企画・運営に協力された実行委員の皆様、またご後援頂いております企業のご尽力の賜と存じ、関係各

位に改めて厚く御礼申し上げる次第です。

学生にとっても有意義なシンポジウムになるようより一層、充実させていきたいと存じますので、今後ともご参加とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



第7回早稲田大学航空宇宙シンポジウム報告

一丸清貴 (1975年卒 加藤研)



2021年9月27日に、第7回「早稲田大学航空宇宙シンポジウム」が、オンライン形式で開催されました。機械科学・航空宇宙学科 天野嘉春教授のご尽力もあり、今回社会人、OB、他大学関係者も含み、84名の参加を得ての開催となりました。

今回は、以前のシンポジウム後のアンケートで希望の多かった「宇宙」、特に「宇宙探査」の技術分野にフォーカスし、本学OBのお二方に講演いただきました。

1)「宇宙機械の“魔法”を説くための12のヒント」として、(一財)宇宙システム開発利用推進機構(Japan Space Systems, JSS)総括主任研究員の町田宏隆氏。2)「宇宙開発の鍵となる月・火星レゴリアス利用に関する技術開発動向と関連するキャリアパスについて」として京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻助教の安達真聡氏。

近年、民間企業の参入も進み、世界的な宇宙開発競争の様相を呈している昨今の情勢から、時機を得た、大変興味深い講演となりました。宇宙探査技術開発の最前線で、研究開発活動をされている、お二方の講演は、非常に興味惹かれるものでした。

町田氏は、「高度に発達し、“魔法”のようにも感じる宇宙機械、人工衛星の世界の技術を、技術として認識してもらうべく、オモシロイと思えるお話を紹介したい」といわれていたが、次々と繰り出される話題は、思わず引き込まれるトピックスばかりで、もっとお聞きしたい(宇宙太陽光発電システムや、宇宙空間(衛星)内でのFIレース等々)、時間が足りないと感じられました。

一方、安達氏は、宇宙環境下に存在する資源として注目される、レゴリアスと呼ばれる土壌活用に関する技術開発動向とともに、御自身の経験から、海外研究機関での活動、アカデミック分野での、そして、宇宙開発分野でのキャリアパスについてもお話いただき、学生諸君にとって、極めて示唆的内容を含む講演内容となりました。

講演後の質問も、具体的かつ宇宙開発分野への志向を感じるもので、講演への興味の高さがうかがえました。ちなみに、講演後のアンケートでは、95%ほどの参加者が、「大満足」あるいは「満足」と評価しており、続編も期待される今回のシンポジウム内容でありました。



町田宏隆氏

安達真聡氏



国際宇宙ステーション (ISS)

学会等における受賞

今回の WME53 号においては、機械工学系の研究室のアクティビティの一部をご紹介します。

以下の表は、2021 年度の理工学術院運営委員会（旧、主任会）資料を基に作成しました。

所属	氏名	研究室名	学会名	賞の名称
共同先端	岩崎 清隆	教授	文部科学省	科学技術分野の大臣表彰科学技術賞
総機	曹 鑫源	草鹿 M	一般社団法人燃料電池開発情報センター	新しい燃料電池顕彰（三席受賞）
総機	関 子或	草鹿 M	一般社団法人燃料電池開発情報センター	新しい燃料電池顕彰（三席受賞）
機航	入江 達也	宮川 D	日本機械学会関東支部	若手優秀講演賞
総機	山崎 真穂	石村 M	日本機械学会	若手優秀講演賞
機航	中村 揚平	宮川 D	ターボ機械協会	論文賞
総機	中村浩太郎	中垣 D	ECOS2020	Best Paper Award
機航	入江 達也	宮川 D	ターボ機械協会	技術賞
機航	富岡 淳	教授	日本設計工学会	厚労省
機航	宮川 和芳	教授	ターボ機械協会	技術賞
機航	宮川 和芳	教授	ターボ機械協会	論文賞
総機	菅野 重樹	教授	ICRA2021	Best Paper Award in Cognitive Robotics
機航	會澤 諒	細井 M	自動車技術会第 2 回学生ポスターセッション	優秀賞
総機	石網ゆうみ	岩崎（清） M	第 60 回日本生体医工学会大会	Young Investigator's Award 優秀賞
総機	荒川龍之介	梅津（信） M	MIRAI Conf on Microfabrication and Green Technology	Young Researcher Award
総機	安倍 悠朔	松田 M	第 49 回可視化情報シンポジウム	学生ベストプレゼンテーション賞
総機	瀬尾 燦振	大谷・助手	IEVC2021	Best Paper Award
理工総研	朱 暁冬	岩崎（清）・助手	第 44 回日本バイオレオロジー学会年会	学会奨励賞
機航	辻村 光樹	佐藤 D	第 53 回流体力学講演会	優秀講演賞（学生賞）
機航	宮川 和芳	教授	日本機械学会	ベストオーディエンス賞
総機	大谷 淳	教授	IEVC2021	Best Paper Award
総機	滝沢 研二	教授	ASME AMD	Executive Committee
総機	Tayfun E.Tezduyar	教授	日本計算力学連合	名誉員
総機	佐武 隆史	岩田 M	ライフサポート学会	バリアフリーシステム開発財団奨励賞
機航	天野 嘉春	教授	計測自動制御学会	SICE Annual Conf International Award
理工総研	前川 卓	教授	SPM2021	Best Paper Awarded:1st Place
理工総研	Felix Scholz	准教授	SPM2021	Best Paper Awarded:1st Place
総機	相原 伸平	岩田 D	ライフサポート学会	バリアフリーシステム開発財団奨励賞
機航	花田 知優	鈴木 B	日本マイクログラビティ応用学会（JASMAC-33）	奨励賞
機航	馬淵 勇司	鈴木 B	日本マイクログラビティ応用学会（JASMAC-33）	敢闘賞
機航	山中亜里紗	鈴木 B	日本マイクログラビティ応用学会（JASMAC-33）	奨励賞
機航	青木 祐和	鈴木 M	日本マイクログラビティ応用学会（JASMAC-33）	優秀賞
総機	阿久津 洸	中垣 M	一般社団法人日本鉄鋼協会第 182 回秋季講演大会	学生ポスターセッション 努力賞
機航	上利 祐貴	太田 M	日本ガスタービン学会	学生優秀講演賞
総機	Peizhi ZHANG	菅野 D	The18th International Conf on Flow Dynamics	Best Presentation Award for Young Res
共同先端	弓場 充	岩崎（清） D	第 11 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会	優秀講演賞
総機	Catherine LOLLETT	菅野 D	TMI Educational Video Competition	Excellent Award
機航	小林 知嵩	内藤 D	日本シミュレーション学会	Student Presentation Award
生命理工	田原 滉大	岩崎（清） M	第 2 回細胞シート工学イノベーションフォーラム	優秀賞
機航	吉村 浩明	教授	ASME FEDSM 2021	Best Presentation Award
機航	吉村 浩明	教授	ASME FEDSM 2021	Flow Visualization Competition 優秀賞
機航	渡辺 昌仁	吉村 D	ASME FEDSM 2021	Flow Visualization Competition 優秀賞
総機	中村浩太郎	中垣 D	日本機械学会動力エネルギーシステム部門	優秀講演表彰
機航	牛奥 隆博	吉村 D	ASME FEDSM 2021	Best Presentation Award
総機	迫本 和也	石井 M	第 18 回関東支部発表会 Geo -Kanto	優秀発表者賞

文部科学大臣表彰を受賞して

岩崎 清隆（1997 卒 梅津（光）研）

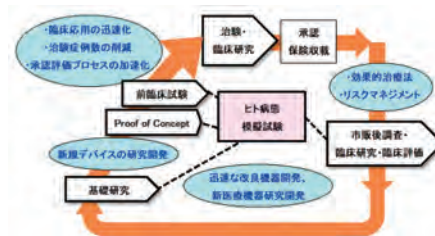


令和 3 年度の科学技術賞（研究部門）を受賞いたしました。これまで大変お世話になっております総合機械工学科の先生方、一緒に研究を進めてきた学生、そして恩師の梅津光生先生に心より感謝申し上げます。

世界の医療機器市場は 45 兆円 / 年程度、日本の治療機器市場は約 3 兆円で、その中で治療機器は半分を占め増加傾向にあります。平均寿命の延伸に伴い、低侵襲の治療機器、生活の質を劇的に改善する治療機器等へのニーズは益々拡大しています。先駆的治療機器の研究開発を実用化へと結実させていくために、非臨床試験機器（ヒト病態模擬試験機器）および評価方法を開発してきました。その研究成果が、医療界、産業界、行政、すなわち、産・官・学のそれぞれの立場において活用され、貢献した点が評価されたもので、大変励みになっております。

関係諸氏に心より感謝申し上げますとともに、気持ちを新たにより一層精進してまいります。

参考文献：最前線を走り続ける 7 つの重点研究領域の未来予想図，早稲田理工 by AERA, P23, 2018



循環型非臨床試験系：
治療機器の全ライフサイクルで活用

機友会アーカイブ創設に関するご提案

機友会会長 大聖 泰弘 (1970年卒 齊藤(孟)研)

この度拝命した会長の立場から、機友会アーカイブの創設について以下に提案したいと存じます。

どのような組織も、その生い立ちと発展に至る歴史があるものですが、私自身が齢を重ねるにつれて、老婆心ながら、本学科の発展の歴史が徐々に忘れ去られるのではないかと危惧するようになりました。

もとより我々は、記憶や記録を頼りに過去を振り返りますが、記憶はあくまで個人の脳裏に属するものであり、その人が世を去れば永遠に失われてしまいます。それに引き換え、記録は文字や映像として保存され、時代を越えて伝えられる手段となります。

本学の機械工学科も長い歴史を歩み

続け、幾多の有益な研究成果と有為な人材の輩出を通じてわが国の産業発展に大きく貢献して来ました。そのルーツから現在に至る経緯を記録して長く残すには、機友会が最適な組織であり、そのための保存場所として、会員が自由に閲覧できるホームページにアーカイブコーナーを設置することを提案します。その際、古い過去のアナログデータも容易にデジタル保存することも記録を長く留めるための一助となります。そのような発展の経緯に接することは、温故知新の例えを引くまでもなく、今後活躍される若手教員の方々と卒業生の皆さんにとっても有意義なことと思われまふ。

卑近な例で恐縮ですが、私が籍を置

いていた内燃機関研究室は、1918年に渡部寅次郎先生が創設され、難波正人、関敏郎、齋藤孟の3先生、さらに私から草鹿仁教授へと引き継がれ、モビリティ研究を中心的なテーマとして発展し、2018年に百周年記念を祝うことができました。

今後は、このような長年引き継がれる研究がある一方で、新たに萌芽し、発展を遂げる研究分野が独自の歴史を創生することも大いに期待されます。そのような研究の記録がアーカイブの新たな1ページを飾ることを願っています。

会員の皆様から、このような提案に対してご意見やご要望を頂ければと存じます。

会員ベンチャー支援の新提案

機友会相談役 浅川 基男 (1966卒 林(郁)研)



評価額が10億ドル以上のベンチャー企業である“ユニコーン”は2019年時点で、米国、中国が100社を超える。この中にはものづくり関連の企業も多数あるが、日本はわずか数社に過ぎない。ユニコーンを増やすために、ベンチャー企業の前段階である大学の研究成果を形にするインキュベーションの立ち上げが重要である。そのインキュベーションが早稲田大学は日本の大学中なんと10位以下!! 早稲田の進取の精神を考えたなら、本来ならダントツ1位となるべきである。インキュベーション事業には失敗がつきものである。しかし、現代の若者は他人の目を気にして失敗を恐れ躊躇しやすい。東大が1位なのは理由がある。ユーグレナ(藻を燃料化)を設立した先輩が企業育成に力を入れているからだ。そこでは、先輩の経験談や指導が、後輩のベンチャー魂を育てている。AI時代のベンチャーを引っ張る松尾豊教授は「これからのAI時代の三種の神器は電気・機械・ディープラーニングだ」と断言している。

日本の人口は、奈良・鎌倉・室町時代は7百~1千万程度で推移してきた。

江戸時代はほぼ3千万、100年前の明治の後半から5千万人に達し、2004年に1億2千784万人でピークに達した(図1)。このまま行くと、2100年には5千万人に舞い戻るのほぼ確実である。今、ジェットコースターに例えれば、その高見を通過して、これからまさに急降下する大きな変化期を迎えている。戦後の人口増では、高度成長のチャンスとして、井深大・本田宗一郎・稲盛和夫・孫正義らがベンチャーを立ち上げた。同じように、人工減へ

と大変化する今こそ、既存企業よりもベンチャーにチャンスが到来してきたと見てよい。

機友会は3万人近くの先輩が、社会で活躍している。この中にはベンチャーを立ち上げた多くの仲間がいる。これらの荒波を超えてきた先輩と、学生諸君らを機友会および諸先生方・大学本部とタッグを組んで、その交流や情報提供に努めて行きたい。

今後の企画にご期待下さい。

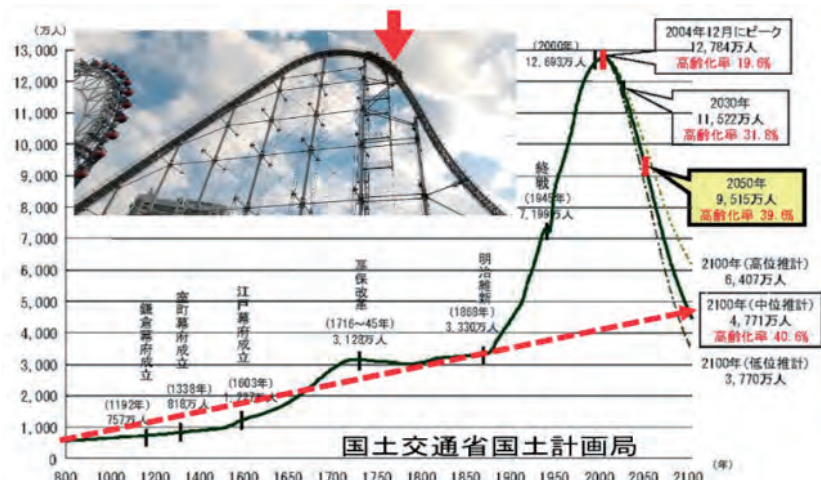


図1 100年単位で見た日本の人口推移

2021年度の総合機械工学科の就職担当教員より

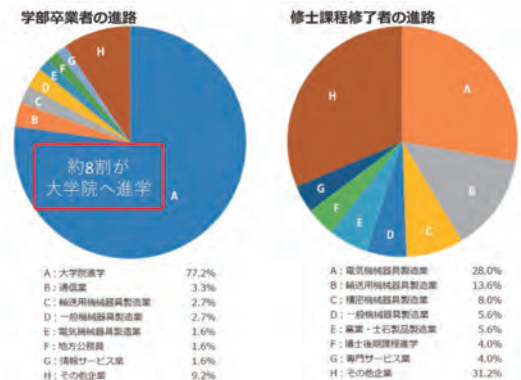
宮下 朋之 (1990年卒 (山川研))

コロナ禍での就職活動となり学生の皆さんには、ネットワーク経由での説明会・見学会・面談・面接が実施された状況でした。前年度よりは対面行事も増加してきておりました。研究を実施する学生が登校できる環境は、ほとんどの期間で維持されていたため、一定の交流は継続して可能であったかと思えます。本年度は、コロナ渦からの回復度合いと企業活動の変化度合いを勘案して、就職活動が長期化した傾向がありました。背景には、本年度より日本経済団体連合会に代わり政府が活動指針を提示したこともあるかと思えます。学生の皆さんは初めての就職活動であり、不安な心情もあったかと思えますが、ほぼ例年通り機械系の就職は堅調でありました。今年度の状況は集計中となり、過去のデータを掲載いたします。学部生は卒業研究・プロ

ジェクトでの活動の継続を考え多くが進学し、修士課程の修了後は、多くが製造業での機械に関わる業務に携わっております。卒業研究・修了研究へ取り組み自身の能力を高めていただき、今後の社会活動での活躍を期待しています。一方、OB/OGの皆様には、学生の就職活動に際して多くのご助言を賜り誠に御礼を申し上げます。実際に就職して継続してお世話になるかと思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

紙面をお借りしまして、OB/OGの皆様にご就業に際してお願いがございます。過去より学内の実習工場(59号館1階)における実習指導に多くの職員を雇用しております。

近年は、希望される方が少なく、実習工場の運営の継続が困難となる状況を科目担当教員として危惧しております。工作機械の使用方法を指導し、安全に関する知識を指導することもあり、企業における製造業務とは異なりますが、職員を継続して募集しておりますので、ご興味ある方がおられればご検討をお願いできればと存じます



就活未経験者が機械科学・航空宇宙学科の就職担当を経験して

佐藤 哲也 (1987年卒 東京大学 梶研)



実は、数年前から、就職担当教員になることに不安を持っていた。なぜなら、これまで一度も、まともな就職活動をしたことがなかったからである。卒業時の就職先は指導教員の勧めをそのまま受け、本学に転職したときにも大学研究すらしていない。エントリーシート、インターンシップ、SPI等、全く経験ない。そんな私が、この1年間で経験したことを振り返ってみたい。

まず、11月に、就職担当教員を集めた打合せ会が開催される。近年の就職活動の動向がうまくまとめられており、この1時間で就職に関する知識が何倍にも増える。幸いなことに、最初の企業との面談がこの会議の1時間後であったので、馬脚を露わさずに済んだ。

面談は各企業30分程度で、今年は大半がオンライン。準備としては、面談前に20分程度、企業情報をネットで見るだけ(失礼いたしました)。就職面接であれば完全に不合格であるが、

それでも40社以上となると結構大変である。面談は、基本的には企業側が進行してくれるので、そこに乗っかって楽しく話をしていけば良い。私からは、企業が求めている人材像と博士の学生の採用について質問した。自宅の部屋の窓から見えるところに、ある機器の日本シェア90%の企業があるなど、面白い出会いもあった。

3月になるとよいよ本番。早稲田の学生は優秀で、何もしなくても次々と内々定を取ってきてくれる。また、予想外にルールを守ってくれたので、担当教員として楽である。5月に学校推薦の企業に紹介状を提出し、一段落。もちろん、なかなか決まらない学生もいたが、採用したいという企業もたくさんあるので、面接と橋渡しを繰り返して、ほぼ全員進路の進路が決定。

12月に行われた機友会共催の進路パネルディスカッションでは、私なりに感じた就職活動についての5つのポ

イントを話させていたきたい。

(1) 採用する側も人間である、(2) 自分自身のことはよくわからない、(3) 就職することがゴールではない、(4) 就活がうまくいかない人の共通点、(5) 親や教員は賢く使え。講義資料よりも手間をかけ、これから就職活動をする学生にはとても有益なことを話したと自画自賛している。ただ、日頃を考えると、私の話が理解できる学生は3割程度で、そういう学生は話を聞かなくても就職活動がうまくできるのであるが。以上、初めての就職担当教員を務め、大変楽しく、また多くを学ぶことができた。ただ、もう一度やりたいとは思わない(笑)。

最後に、連絡事務室の北原様に御礼を申し上げたい。適確、緻密、迅速な仕事ぶりで、右も左も分からない私のサポートをして頂きました。どうもありがとうございます。

山根雅已先生を偲んで

寺山 孝男 (1969年卒 山根研 OB会 会長)

山根雅已先生は、2021年7月25日にご逝去されました。享年93歳でした。

先生は早稲田大学を卒業後、福音電気(現パイオニア)、日立製作所・中央研究所を経て、1967年に教官として大学に戻られました。福音電気では音響機器の開発に携われ、日立では高速疲労の研究並びにその試験機の開発に従事されました。日立で同僚だった方々のお話によると、実験室ではクラシック音楽のBGMを流し、昼休みにはラジコン飛行機を飛ばして楽しまれていたと伺っています。

私は、先生が大学に戻られた最初のゼミ生で、修士までの4年間に亘りご指導をいただきました。その期間、モノづくりを通じた研究開発の楽しさを経験させていただき、その後の技術者としての生き方の礎になりました。

先生にお世話になった卒業生は500

名を超えます。それぞれの卒業生が、音響機器、潜水機器、自動演奏楽器、疲労試験機、等の研究開発テーマに取り組んで巣立ち、同様な思いを持たれたのではないのでしょうか。

これらの卒論テーマは先生の多様なご趣味に関連していたようです。中でもバグパイプは、東京パイピングソサエティという愛好会を設立され、自らも各地で演奏活動をされて、その普及にもご尽力されました。1975年には、訪日された英国女王陛下に、愛好会メンバーと演奏を披露されました。

論語に、『知之者不如好之者 好之者不如樂之者』(これを知る者これを好む者に如かず これを好む者これを樂しむものに如かず)、という言葉があります。先生がこの言葉をご存知であったかどうかは分かりませんが、まさにこれを実践されていたように思い



先生自作のパイプオルガンと(2006年)

ます。

また、ご趣味とともに先生の交友関係の広さにも驚きを隠せませんでした。人脈もまた、開発を楽しむために不可欠だったのかもしれない。しかしその代償として、先生の奥様のご苦労と惜別の悲しみは如何ばかりだったかと、僭越ながら思いをいたしております。

最後に、山根研究室 OB を代表し、学生時代に山根雅已先生より賜ったご薫陶に対して感謝し、追悼の言葉とさせていただきます。

我らが勝田正文先生を偲ぶ！

納富 信 (1993年卒 勝田研)



2021年9月1日、勝田正文先生が71歳で逝去されました。2020年3月に定年退職をされて間もない訃報に、多くの方々驚きを隠せず、「残念無念」の一言に尽きます。

先生は、1972年に早稲田大学高等学院から理工学部機械工学科に進学し、その後、修士・博士課程へと進み、82年に母校に戻り、教育・研究にご尽力されました。

勝田研究室を巣立った卒業生500名は、冷凍空調分野はもとより、自動車、重工、電機、エネルギー、ゼネコン、鉄道、など、幅広い分野で大活躍しています。勝田先生は、師であるとともに「愛らしいお父さん」でした。

さて、これからは卒業生が経験した、先生のお人柄をあらわすエピソードで偲びましょう。勝田先生は、人一倍、否、人百倍、若い学生とのコミュニケーションを貪欲に求め楽しんでおられました。研究室のイベントでは、自ら進んでお酌をして回り、特にセミ

ナーハウスでの研究室合宿では、その勢いは倍増しました！宴が盛り上がり、先生はそわそわし始め、周りにいる学生は「あっ、始まった(笑)」と思いながら、しばらくは放置。そのうち先生は、研究者よろしく、部屋にある「梁」の強度を確認し始めます。もちろんお酒もまわっているので大雑把な計算と実験で。

サッと身軽に「梁」に飛びついて、先生曰く「コアラ！」(どうみてもナマケモノ)をご披露してくれるのです！拍手大喝采！気を良くした先生は、それを何度も繰り返し、そのうち誰も見向きをしなくなり、常に周りに気を配り、サービス精神旺盛で、場を楽しませてくれて、至極のひと時を与えて下さいました。そんな先生は、もう近くにいない。近くにいることがあまりに日常過ぎて、当たり前と思っていた先生と

のかかわりが叶わないことは、ご逝去されて半年近く経つ今でも、まだ信じられません。

ご退職後、少し時間を持てる頃合いに、また一緒に温泉に浸かってゆっくりとお話したかった、そんな想いはまた会える日まで取っておきます。

先生のご冥福を、心からお祈り申し上げます。勝田正文先生、ありがとうございました。



アメリカサンディエゴ日米熱工学合同会議
(左より、納富・勝田先生・勝田先生ご尊父(早大機械1945年卒))

前編集責任者からのメッセージ

前 機友会副会長 石 太郎 (1967年卒 齊藤研)



新型コロナウイルスがようやく下火になってきた中で、新体制の下、新たに機友会ニュースレターWME（以下ニュースレター）の取組みがスタートしたことは喜ばしいことと感じます。前編集者の立場から感じておりましたことを一言述べさせていただきます。ニュースレターは、誰に何を発信するかが基本で、その前提になるのは、機友会の活動とは何かという思想があることが重要であると思っておりました。その中で“学生はニュースレターなど誰も読まないですぐゴミ箱に捨てら

れるよ”という声も辛く、歯を食いしばって頑張ってきました。私は、ニュースレターのような印刷物は、自分が読むつもりで、読者をイメージして愛情をもって編集することが大切と思って編集に携わってきました。学生さんの気持ちを表すこと、一般のOBへの情報提供することであり、それに機友会活動のアーカイブとしての価値も大きいと思っております。実務面では常に日程と原稿集めに追われ、とにかく早めの原稿依頼と執筆原稿回収がポイントです。

そして全体を見渡す編集責任者がいることがとても重要です。誤字脱字、用語使い等がばらばらでは、ニュースレターがブーアなものに見られて、延いては機友会活動にも影響がでます。仕事途中で引き下がるのも忸怩たる思いですが、今後の機友会発展を祈念いたします。関係者にはいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

会 員 計 報 (敬称略)

卒 年	学 歴	氏 名	逝去年月日
1947	専機	渡辺 正道	2019/12/
1951	機械	井熊 映登	2020/5/15
1951	機械	太田 公陽	2020/2/22
1951	機械	枝 茂太郎	2019/
1951	機械	杉本 辰治	2017/3/
1951	機械	水口 保	2019/
1951	機械	山口 雅之	2019/
1951	機械	山田 正明	2019/
1952	機械	藤井 宏	2018/11/
1953	機械	高井 浩	2020/5
1953	機械	板橋孝一郎	2021/5/9

卒 年	学 歴	氏 名	逝去年月日
1961	機械	山根 雅巳	2021/7/25
1961	機械	勝田 正文	2021/9/1
1961	機械	増田 次郎	2021/10/8
1961	機械	森田 和夫	2021/10/1
1961	二機械	有元 昭	2021/8/15
1965	機械	安井 脩	2021/
1977	機械	伊藤 一彦	2021/10/16
1977	機械	内田 雅之	2019/8/20
1977	機械	大西 隆治	2021/5/7
1981	機械	吉田 幸郎	2022/1/4

機友会事務局から

編集後記

早稲田機友会報は大正13年(1924)10月に創刊されました。その後、昭和37年(1962)にWMEと名称を変え1号が復刊され、平成4年(1992)12月の復刊78号まで発行されました。「イノベーション'94」をきっかけに、機友会の将来にむけての大きな変革の布石となるべく、新たな気持ちでWME創刊号Vol.1を発行するに至りました。今回のWME Vol.53号は、今までの様式としては終止符を打ち、紙媒体を主体としたWMEとしては最終号となります。情報伝達の媒体が多様化している中、何とか皆様とのつながりやすい形を作ろうと考えています。どうかご理解くださいますようお願い申し上げます。(M.U. & J.S.)



機友会事務局
 開室日：月曜日 10時—16時
 住所：〒169-8555 新宿区大久保3-4-1 55号館4階
 電話/FAX 03-3205-9727 E-mail : waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

公認サークル合同新歓

基幹理工学部 機械科学・航空宇宙学科 4年 吉村研究室 畠山 祥

2020年8月3日に公認サークルオンライン合同新歓を行いました。失敗に終わりました。ニュースターにおいて、企画は成功したという風にかかれることが多く、それらは面白くないことが多いので、失敗した企画も掲載してみようという編集者の粋な計らいで、こうして失敗事例を書かせていただいています。

【経緯】

2020年はみなさんご存知の通り、新型コロナウイルスが流行し、多くの影響をもたらしました。サークルの新生勧誘もその例外ではありません。サークルは、対面での新歓が行えない、オンラインで新歓を行おうと思っても、一つのサークルでの呼びかけだと、多くの人が集まらない、という問題を抱えていました。新生もまた、それぞれのサークルが個別に情報を発信しているため、情報が分散して、

効率よく情報を集めることができない、という状況でした。

そこで、機友会主催の、公認サークルオンライン合同新歓を行うことにしました。各サークルは、合同新歓の告知をしているだけでよく、新生も合同新歓に参加するだけで、複数サークルの情報を得られる。また、早稲田大学の同窓会組織である稲門会所属の機友会がとりまとめを行うことで新生も信頼感を持って新歓に参加できると、そう思っていました。

【当日の様子】

参加者は約20名、YouTubeでのアーカイブ動画の再生回数は執筆段階(2022/01/12)で、54回。推定70名ほどの学生にこの企画を認知いただきました。

もはや早稲田大学の春の風物詩とも言える、左右に先輩がいる道を歩ききるころには、100枚以上の新歓チラ

シが手元に置かれているPush型の新歓とは異なり、Twitterで新歓情報を取得している感度の高い学生が、自らの意志でZoomに参加するPull型の新歓でした。理工学部の新入生は7,382名。多く見積もっても1%の学生にしかな認知いただくことはできませんでした。どう考えても失敗です。

【拡散のお願い】

今回の取り組みが来年度以降のオンライン新歓の教訓となったり、YouTube上のアーカイブ動画が有効活用されたりすることで、公認サークルオンライン合同新歓が次の成功につながることを祈っています。



アーカイブ動画のリンク

OG 座談会

創造理工学部 総合機械工学科 3年 高西研究室 澤口 彩

2020年11月28日(土)に、4回目となるOG座談会を開催いたしました。OG座談会は、「機械科女子にとって、学校生活やライフイベントを含めたキャリアについてなどを相談できる相手や機会が圧倒的に少ない」という声から始まった企画です。進学進路相談や実際の働く環境の話を様々な立場のOGの皆様から聞くことで、今後の機械系女子学生のキャリアプランを後押しするだけでなく、学科や年代の幅を超えた縦のつながりを持つことを目的としています。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、Zoomを利用したオンライン開催となり、経歴紹介・パネルディスカッションと座談会の2部制で行いました。

5名の様々なキャリアを持つOGの皆様が集まっていただき、パネルディスカッションでは事前に学生より集めた「学部卒/修士卒/博士卒を選んだ理由」「就活における企業選びの軸」

「仕事とプライベートの両立」といった進路に関する質問や「研究室選びについて」「学生のうちにやっておくべきこと」など学生生活に関する質問にお答えいただきました。OGの皆様には1つ1つの質問に丁寧に答えいただき、学生からも気になっていたことが聞けて良かったとの声をいただきました。

2部の座談会では学生を3つのグループに分け、25分ごとにOGの皆様に入れ替わっていただく形で、すべてのOGの方とお話できる時間を設けました。オンラインということもあり相互のコミュニケーションが難しい部分もありましたが、OGの皆様、学生ともに時間があっという間だったという意見が出るほど積極的に交流していただけました。特に私の参加したグループでは「ライフイベントとキャリアの両立」というテーマに関して盛り上がり、OGの方が実体験を交えたアドバイスなどをお話くださったことがと

ても印象に残っております。また、学部生の参加が多かったこともあり、研究室や大学院進学についても学部卒、修士卒、博士卒それぞれのOGの方が詳しくお話しくださり、学生の進路の参考になったことと思います。

開催後のアンケートでは、OGの皆様からは「後輩とお話でき、懐かしくなりました。少しでも力になれていたらうれしいです。」というありがたいお声を、そして学生からは「コロナ禍で情報が入手しづらくなって困っていたのでとてもありがたかった。」との感想を頂き、開催してよかったと感じております。

ご参加頂いた学生の皆様、お忙しい中ご協力いただいたOGの皆様、本当にありがとうございました。

本年度も5回目のOG座談会を2月の上旬に予定しております。皆様ご参加お待ちしております。

(学生会記事 編集：金丸光希、岡田真綾、折笠勇)

【現在の学生部会メンバー（2021年度時点）】



花田知優 (B4)



馬淵勇司 (B4)



澤口彩 (B3)



金丸光希 (B3)



小林拓海 (B3)



野村優衣 (B2)



岡田真綾 (B1)

メカ女会

創造理工学部 総合機械工学科 2年 野村 優衣

メカ女会は機械科女子に特化したイベントになっており、研究室に配属されるまでは同じ学科内であっても先輩・後輩間で話せるチャンスがなかなか無いということから毎年開催しています。例年は対面で行い、お菓子などを食べながら話すことができたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年度からはオンラインで行っています。

本年度は9月12日（日）に開催され、9名の学生と3名の学生部会所属幹事の計12名が参加しました。昨年度は前半でクイズ大会を行ったのですが、今年度はさらに仲良くなるきっかけになりそうな企画として、積み木式自己紹介ゲームとお絵描きリレー対決を行いました。積み木式自己紹介ゲームは前の人たちの自己紹介を繰り返しながら自分の自己紹介を足していくというゲームで、先輩の意外な一面を知ることができました。お絵描きリレー対決では2チームに分かれ、一人が回答者となり、他のチームメンバーがお題の絵をZoomの描きこむ機能を使って完成させ、回答者

が正解したお題の数を競いました。この対決は1点差となる接戦で、とても白熱した対決となりました。ゲーム終了後、お話タイムの時間に入り、研究室や就職のことから、おすすめの選択科目までざっくばらんに話すことができました。先輩方と話す機会はなかなか無いので、後輩にとってとても貴重な時間になったと思います。

開催後のアンケートではこんな声が寄せられました。「就活しやすい研究室など、具体的に知ることができて良かったです！冬休みなどにまた開催して頂けると嬉しいです。」「来年の春学期の前にも開催していただきたいです。」また、ア

ンケートに答えてくださった方全員が楽しかったと答えてくださいました。私自身、昨年度のメカ女会をきっかけに学生部会に入ったのですが、今年度は自分がメカ女会の企画側になり、先輩方と企画できたこと、とても楽しかったです。コロナ渦でなかなか新しい出会いがない中で、たくさんの交流をできたこと、参加して下さった学生の皆様がまた参加したいと言ってくれたこと、とても貴重な会になったと思います。

ご参加いただいた学生の皆様、本当にありがとうございました。次回開催の際には、さらにたくさんの参加をお待ちしています。



参加者による記念撮影



お絵描きリレー対決

学生会のこれまでと今

～コロナ禍でのオンラインイベント開催と機総会の開設～

機械科学・航空宇宙専攻 博士後期課程 2年 鈴木研究室 折笠 勇

皆さんこんにちは、学生会代表の折笠です。学生会は、早稲田大学の機械科学・航空宇宙学科（機航）と総合機械工学科（総機）の有志学生からなる学生団体です。2017年度に当時の有志博士学生を中心に発足して以来、機航・総機学生を対象とした多くのイベントを企画・運営してきました。

具体的には、もっと学生間の親睦を深められないかと企画したイベントとして、研究室対抗の野球大会や女子学生限定の交流会（通称：メカ女会）を開催し、学生のキャリア支援として、博士学生によるパネルディスカッションやOGを招いた講演会（通称：OG座談会）を開催してきました。また、公式SNS（TwitterとFacebook）の開設や、卒業式、入学ガイダンスなどでの登壇を通して、これらの活動の周知に努めて参りました。学生会では発足当初より、定期的に55号館の竹内記念ラウンジに集まり、「定例会」と称してこうした企画・活動のアイデア出しや議論を行ってきました。

さて、2年前に流行を始めた新型コロナウイルスは、学生会にとっても厄介な相手でした。人と接触できないと、活動がここまで制限されてしまうものかと思知らされました。これまで、対面での話し合いを基本としていた「定例会」も約1年間休止してしまいました。それでも、学生会に何かできないかと、部会員同士、オンラインチャットツールで意見を出し合い、いくつかのオンラインイベントを企画・

遂行することができました（詳細については、以降の記事をご覧ください）。

オンラインのみの打合せで企画したオンラインイベントという全く初めての経験であったため、当初は上手くいくものかと疑念や心配がありました。しかし、各イベントを主導してくれた部会員たちの行動力や柔軟な環境適応力は想像以上に大きく、少しでも負の感情を抱いた自分を恥じたほどでした。

その後というもの、オンラインベースでの活動にも幾分か自信が付き、2021年度には「定例会」をオンラインで再始動しました。以降、これまで月一回程度だった頻度を、一回当たりの時間を減らしつつ週一回に増やすことで部会員同士の交流機会も確保できるように努めています。

立ち上がりから6年目を迎えようとしている現在、学部1年から博士2年までの計11人を中心に活動しています。発足当時は部会員のほとんどが博士学生でしたが、いまはその半数以上を学部・修士生が占めており、大きく若返りが進んでおります。また、新規入会の仕方も、これまでは部会員が退会するに伴い自身の所属する研究室やサークルの後輩から後任者を選出することが大半であったのに対して、最近では、各イベントの参加者から自発的に入会希望の連絡を頂けるようになりました。継続してイベントを開催してきた大きな成果の1つであると感じています。

一方で、学生会の認知度やイベン

トの周知はまだまだ十分ではありません。せっかく企画したイベントも宣伝できなければ、意味がありません。そこで、学生会では、現役学生との安定的な相互連絡手段を確保するため、「機総会」と称する機航・総機学生限定の*LINEオープンチャットを2021年末に開設しました。現在まさに、現役学生間の既存のLINEグループや研究室ベースでの周知を行っており、既に数十名が参加しております。最終的には、1000人以上いる全機航・総機学生が「機総会」に参加し、いつでも近い距離で学生会と対話できる環境が作れればと思っています。

本誌をお読みの現役機航・総機学生の方々は、ぜひ今すぐ参加お願い致します。参加の際は、以下のQRコードを読み取って頂き、トップページの説明を注意深く確認した上で、登録お願い致します。また、その他、学生会に興味がある方、現役学生だけではなくOB・OG間でもオンラインコミュニティを整備してほしい、こんなイベントを開催してほしいなど希望・ご意見・アイデアのある方は、いつでもご連絡お待ちしております。

代表：i.oriokasa@fuji.waseda.jp



機総会参加 QR コード

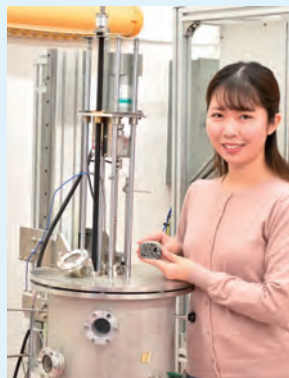
【現在の学生会メンバー（2021年度時点）】



中村浩太郎 (D3)



折笠勇 (D2)



高松聖美 (D1)



畠山祥 (B4)